

ストックちゃん聞く！ 資源管理教室

MSYってなあに？



ストックちゃん

魚を食べるのが大好きな、8歳の女の子。「毎日おいしい魚がずっと食べ続けられますように」と、魚を増やそうとがんばる漁師さんを応援している。

魚を増やすための考え方

改正漁業法が成立し、日本で新しい資源管理が始まる。世界でも活用されている最大持続生産量（MSY）という概念を使って目標を導き出し、その目標に資源を回復させようという試みだ。では、そのMSYとは一体、何なのか。魚の資源に関心のあるストックちゃんが、水産研究・教育機構で資源を研究する岡村寛先生と市野川桃子先生に聞いた。

（企画・中島）

MSYはなぜできたの？



岡村先生、MSYってなあに？

岡村先生 初めて登場したのは今から90年近くも前、1930年ごろなんだ。それ以前は、広い海にはたくさん魚がいて、決して獲り尽くすことはできないと信じられていたんだよ。

だけ、漁獲の技術が進んでたくさん魚が獲られるようになると、獲れる魚が少なくなってしまうことに気が始めたんだね。どうすれば獲り尽くさずに獲り続けられるかを当時の科学者が考えて、出した答えが「MSY（Maximum Sustainable Yield）」なんだ。

もう少し簡単にいうと、無尽蔵に魚がいると思っていた海にも限界があって、獲りすぎると魚はいなくなってしまうけど、きちんと管理してい

れば、魚をいつまでも獲り続けることもできるんだ。ずっと獲り続けられる漁獲量の最大がMSY。MSYを得られるように海の中の魚を維持することができれば、海の恵みの魚も獲り尽くすことなく安定して利用できます、って考えたよ。

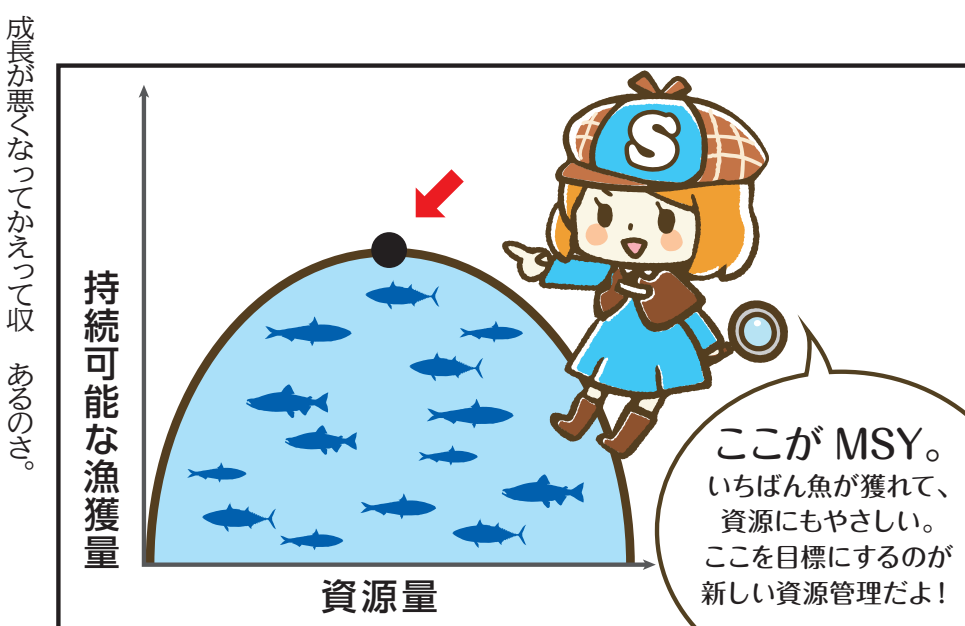
市野川先生 野菜などを作る畑を想像してもらうと分かるやすいかも。植え過ぎると

一度は葬られたことも



ふーん、MSYってなあに？

岡村先生 ただ、海の場合には、畑のように大きさも分らないし、海の野菜（魚）は目に見えなくて動き回るといのが問題でね。あと、環境変動の影響も大きくて、例



あるのさ。

市野川先生 だから、70年ごろには、MSYは意味がないって言われたこともあるんです。ちっともうまく推定できないし、当てにならないって。77年になると、資源学者のラーキン博士は、MSYの概念はここに眠る、という「MSYの墓碑銘」なんて論文を書いたから、世界中にMSYはダメだって考えが広まりました。

最近、不死鳥のように復活？



じゃあ、やっぱりMSYは、役立たずのへっぽこなんだ。

岡村先生 必ずしもダメじゃないんだ。世界ではMSYの推定方法やMSYを使った管理の工夫がいろいろされてきて、2000年代の初めにMSYの復活を宣言する論文も出たんだよ。

ただ、MSY批判が渦巻いていた頃に日本はマイワシやマサバの大変動を経験したから、日本では獲る獲らないに

魚を増やす目標の基礎に



じゃあ日本は魚を増やすのにMSYをどうやって使うの？

市野川先生 日本って漁業の歴史がすごく長いんですよ。そして、日本周辺の海は豊かで生産力もすごく高いん

まいます。それに、今までの日本の水産資源管理では、現状維持さえしていればよい、ということがしばしば行われていました。でも、長年それを続けていくうちに、資源の状態がさらに悪くなって、とうとう魚が獲れなくなって、漁業者が困ることが増えてきたんです。MSYによって、魚を獲り控えたならどのぐらいまで資源や漁獲量が増えるかと推定すると、近年では経験

みんなで「やってみよう！」



資源が悪いなら「できることからやってみよう！」ってことだね。

市野川先生 そうですね。一つのチャレンジ（前向きな挑戦）と理解してもらえればいいんじゃないかと、私は思っています。もちろん、新しい管理がしやすい資源もそうでない資源もありますが、だからといって何もやらなくて

は、今の状況も変えられないですよ。よく、獲り控えたからといって本当に魚は増えるの？と聞かれますが、例えば11年の東日本大震災のあと、沿岸の船も施設もたくさん被害を受けて、漁師が漁に出られないことが何年も続いた場所がありました。そのあとどうなったかという、数年漁をしなかったことで海のヒラメやタラがすごく増えた

漁獲70万ト増える試算も



じゃあ、新しい資源管理を行うところだけ魚が増えるの？

市野川先生 一昨年の初めに私たちのグループが科学雑誌に発表した推定では、日本の主要な37系統のうち乱獲状態にある資源がMSY水準まで回復できれば、今よりおよそ70万トも漁獲量が増えるという結果になりました。でもそのためには、短期的には漁獲量や努力量を抑えて資源が回復するのを待つ必要がある場合もあります。



魚が増えて漁師の皆さんが笑顔になって、わたしたちもおいしい魚をずっと食べ続けていけるといいね。岡村先生、市野川先生、どうもありがとう。



今の日本の水産物の総生産量は380万トだから、それに比べ

ても70万トってすごく多い量だね。きやつぽーい。

岡村先生、市野川先生 ありがとう、きやつぽーい。